

仙台高等専門学校		開講年度	平成27年度 (2015年度)		授業科目	協学実習
科目基礎情報						
科目番号	0129		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	機械システム工学科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	前期:2		
教科書/教材						
担当教員	熊谷 進,千葉 幸一郎,今野 一弥,若生 一広					
到達目標						
1年生を対象とした協同学習を通してチームワークの必要性・ルール・マナーを理解して、チームの一員として他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持って共同作業を進めることができる。また、自ら行動の模範を示すことができ、他者に対して適切な協調行動を促し、共同作業を進めることができる。						
ルーブリック						
	Lv.5	Lv.4	Lv.3	Lv.2	Lv.1(不可レベル)	
コミュニケーションスキル	相手の主体性および良いところを引き出した。	相手を理解したわかりやすい伝え方を工夫して改善が見られた。	相手を理解したわかりやすい伝え方を試行錯誤している。	コミュニケーションを図る努力は見られるが、改善が見られない。	実習に理由の如何に問わず出席していない。あるいはコミュニケーションを図る意思が見られない。	
課題発見	つまづきを1年生自身で分析することを促し、つまづかなくなるための学習方法を協同で考案した。	現状のつまづいているところを分析し、つまづかなくなるための学習方法を協同で考案した。	現状のつまづいているところを分析し、理解しやすいような解法や教材を提示した。	理解しやすい解法や参考書を提示したが、現状分析が不十分である。	問題を解かせて解答するだけで、今後の学習習慣に寄与していない。	
リーダーシップ	1年生それぞれの個性を伸ばしながら協調行動をとらせ、主体的で積極的な学生に変身させた。	自身の学習経験などを踏まえて模範を示し、1年生が主体的な学習行動をとるようになった。	自身の学習経験などを踏まえて模範を示し、1年生が主体的な学習行動をとるきっかけを与えた。	行動の模範を示したが、1年生の主体性を引き出す工夫がなかった。	高圧的で自分の自慢に終始した。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	基礎数学A・Bを題材として1年生と一緒に各自に合った学習方法を見つけ出し、基礎学力を向上させる教育手法について考えるとともに、チームワーク力、リーダーシップを養成する科目である。					
授業の進め方・方法	協同学習に関する知識を確認した後、基礎数学A・Bを対象に理解を促進する学習方法を1年生と共同で考えていく。本科目の受講生同士で中間報告会を行いながら、学習方法について改善を図り、学習のファシリテーターを担うことでリーダーシップを養う。					
注意点	基礎数学A・Bの協同学習のファシリテータを担うので、該当科目を十分に理解していることが本科目履修の前提となる。今年度から開始する科目のため、大人数の受講生には対応できないため、これまでの学習成績を勘案して受講生を選定する（概ね20人程度）。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンスおよび協学実習に関する講義 (4/7)		協同学習に対して概要を理解できる	
		2週	協働学習に関する講義およびグループワーク(4/14)		チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、社会への影響を意識視した行動をとることができ、人間性、モラルなど社会的観点から物事を考えることができる。	
		3週	協学実習(4/21)		技術者や一般市民などコミュニケーションの対象者によらず相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ることができる。	
		4週	協学実習(4/28)		自ら行動の模範を示すことができ、他者に対して適切な協調行動を促し、共同作業を進めることができる。	
		5週	協学実習(5/12)		現状と目的を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、論理的解決策を立案し、実効策を絞り込むことができる。	
		6週	中間報告会(5/19)		より多様な環境の中で周囲の状況と自身の立場を照合し、主体的な行動により仕事の推進に貢献できる。	
		7週	協学実習(5/26)		コミュニケーションの有効性に対する評価をもとに、目的に応じて説明方法等を再構築できる。	
		8週	協学実習(6/2)		自ら行動の模範を示すことができ、他者に対して適切な協調行動を促し、共同作業を進めることができる。	
	2ndQ	9週	協学実習(6/9)		自ら行動の模範を示すことができ、他者に対して適切な協調行動を促し、共同作業を進めることができる。	
		10週	協学実習(6/23)		現状と目的を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、論理的解決策を立案し、実効策を絞り込むことができる。	
		11週	協学実習(6/30)		現状と目的を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、論理的解決策を立案し、実効策を絞り込むことができる。	
		12週	中間報告会(7/7)		より多様な環境の中で周囲の状況と自身の立場を照合し、主体的な行動により仕事の推進に貢献できる。	
		13週	協学実習(7/14)		コミュニケーションの有効性に対する評価をもとに、目的に応じて説明方法等を再構築できる。	
		14週	協学実習(9/8)		自ら行動の模範を示すことができ、他者に対して適切な協調行動を促し、共同作業を進めることができる。	

		15週	報告書作成(9/29)		技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を理解している。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
		報告会		報告書		合計	
総合評価割合		60		40		100	
基礎的能力		0		0		0	
専門的能力		0		0		0	
分野横断的能力		60		40		100	